

令和3年度 東京大学2次試験前期日程(数学問題)150分
理科(一類, 二類, 三類) 数I・II・III・A・B

1 a, b を実数とする. 座標平面上の放物線

$$C: y = x^2 + ax + b$$

は放物線 $y = -x^2$ と2つの共有点を持ち, 一方の共有点の x 座標は $-1 < x < 0$ を満たし, 他方の共有点の x 座標は $0 < x < 1$ を満たす.

(1) 点 (a, b) のとりうる範囲を座標平面上に図示せよ.

(2) 放物線 C の通りうる範囲を座標平面上に図示せよ.

2 複素数 a, b, c に対して整式 $f(z) = az^2 + bz + c$ を考える. i を虚数単位とする.

(1) α, β, γ を複素数とする. $f(0) = \alpha, f(1) = \beta, f(i) = \gamma$ が成り立つとき, a, b, c をそれぞれ α, β, γ で表せ.

(2) $f(0), f(1), f(i)$ がいずれも1以上2以下の実数であるとき, $f(2)$ のとりうる範囲を複素数平面上に図示せよ.

3 関数

$$f(x) = \frac{x}{x^2 + 3}$$

に対して, $y = f(x)$ のグラフを C とする. 点 $A(1, f(1))$ における C の接線を

$$l: y = g(x)$$

とする.

(1) C と l の共有点で A と異なるものがただ1つ存在することを示し, その点の x 座標を求めよ.

(2) (1) で求めた共有点の x 座標を α とする. 定積分

$$\int_{\alpha}^1 \{f(x) - g(x)\}^2 dx$$

を計算せよ.

4 以下の問いに答えよ.

- (1) 正の奇数 K, L と正の整数 A, B が $KA = LB$ を満たしているとする. K を 4 で割った余りが L を 4 で割った余りと等しいならば, A を 4 で割った余りは B を 4 で割った余りと等しいことを示せ.
- (2) 正の整数 a, b が $a > b$ を満たしているとする. このとき, $A = {}_{4a+1}C_{4b+1}$, $B = {}_aC_b$ に対して $KA = LB$ となるような正の奇数 K, L が存在することを示せ.
- (3) a, b は (2) の通りとし, さらに $a - b$ が 2 で割り切れるとする. ${}_{4a+1}C_{4b+1}$ を 4 で割った余りは ${}_aC_b$ を 4 で割った余りと等しいことを示せ.
- (4) ${}_{2021}C_{37}$ を 4 で割った余りを求めよ.

5 α を正の実数とする. $0 \leq \theta \leq \pi$ における θ の関数 $f(\theta)$ を, 座標平面上の 2 点 $A(-\alpha, -3)$, $P(\theta + \sin \theta, \cos \theta)$ 間の距離 AP の 2 乗として定める.

- (1) $0 < \theta < \pi$ の範囲に $f'(\theta) = 0$ となる θ がただ 1 つ存在することを示せ.
- (2) 以下が成り立つような α の範囲を求めよ.

$0 \leq \theta \leq \pi$ における θ の関数 $f(\theta)$ は, 区間 $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ のある点において最大になる.

6 定数 b, c, p, q, r に対し,

$$x^4 + bx + c = (x^2 + px + q)(x^2 - px + r)$$

が x についての恒等式であるとする.

- (1) $p \neq 0$ であるとき, q, r を p, b で表せ.
- (2) $p \neq 0$ とする. b, c が定数 a を用いて

$$b = (a^2 + 1)(a + 2), \quad c = -\left(a + \frac{3}{4}\right)(a^2 + 1)$$

と表されているとき, 有理数を係数とする t についての整式 $f(t)$ と $g(t)$ で

$$\{p^2 - (a^2 + 1)\}\{p^4 + f(a)p^2 + g(a)\} = 0$$

を満たすものを 1 組求めよ.

- (3) a を整数とする. x の 4 次式

$$x^4 + (a^2 + 1)(a + 2)x - \left(a + \frac{3}{4}\right)(a^2 + 1)$$

が有理数を係数とする 2 次式の積に因数分解できるような a をすべて求めよ.

解答例

- 1 (1) $C: y = x^2 + ax + b$ と $y = -x^2$ の2式から y を消去して整理すると

$$2x^2 + ax + b = 0$$

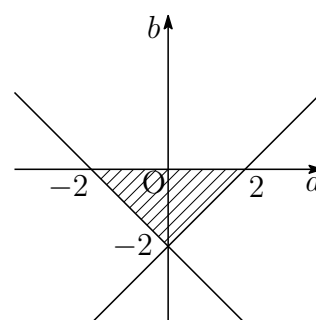
$f(x) = 2x^2 + ax + b$ とおく. C と $y = -x^2$ の共有点の x 座標が $-1 < x < 0$, $0 < x < 1$ であるとき, 次を満たせばよい.

$$\begin{cases} f(-1) = -a + b + 2 > 0 \\ f(0) = b < 0 \\ f(1) = a + b + 2 > 0 \end{cases}$$

それぞれ整理すると

$$\begin{cases} b > a - 2 \\ b < 0 \\ b > -a - 2 \end{cases}$$

よって, 求める領域は, 右の図の斜線部分で境界線を含まない.



- (2) C の方程式から, $b = -xa + y - x^2$ であるから

$$g(a) = -xa + y - x^2$$

とおくと, $b = g(a)$ は, 傾き $-x$, 切片 $y - x^2$ の直線である.

これが (1) で求めた領域を通る条件, 切片に注目して求めればよい.

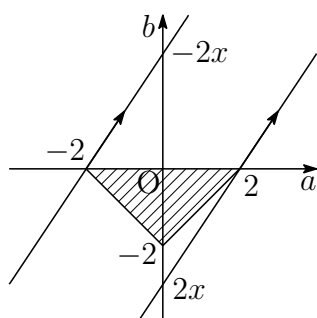
- (i) $x \leq -1$ のとき

$$2x < y - x^2 < -2x \quad \text{ゆえに} \quad x^2 + 2x < y < x^2 - 2x \quad (x \leq -1)$$

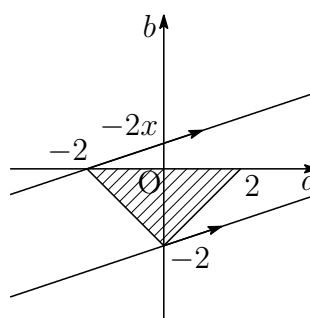
- (ii) $-1 \leq x \leq 0$ のとき

$$-2 < y - x^2 < -2x \quad \text{ゆえに} \quad x^2 - 2 < y < x^2 - 2x \quad (-1 \leq x \leq 0)$$

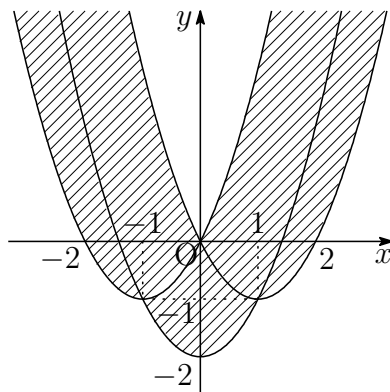
- (i) $x \leq -1$ のとき



- (ii) $-1 \leq x \leq 0$ のとき



$C: y = x^2 + ax + b$ と放物線 $y = -x^2$ が $-1 < x < 0$ と $0 < x < 1$ の区間でそれぞれ共有点をもつから、 x と $-x$ の対称性に注意すると、 $x \leq 0$ で C の通りうる範囲と $0 \leq x$ で C の通りうる範囲は y 軸について対称である。よって、求める領域は、下の図の斜線部分で境界線を含まない。



2 (1) $f(z) = az^2 + bz + c$ について、 $f(0) = \alpha$, $f(1) = \beta$, $f(i) = \gamma$ であるから

$$c = \alpha, \quad a + b + c = \beta, \quad -a + bi + c = \gamma$$

上の第1式を第2式, 第3式に代入して整理すると

$$\begin{cases} a + b = \beta - \alpha & \cdots \textcircled{1} \\ -a + bi = \gamma - \alpha & \cdots \textcircled{2} \end{cases}$$

$$\textcircled{1} + \textcircled{2} \text{ より } (1+i)b = \beta + \gamma - 2\alpha$$

$$b = \frac{\beta + \gamma - 2\alpha}{1+i} = \frac{1}{2}(\beta + \gamma - 2\alpha)(1-i)$$

$$\textcircled{1} \times i - \textcircled{2} \text{ より } (1+i)a = (\beta - \alpha)i + \alpha - \gamma$$

$$a = \frac{(\beta - \alpha)i + \alpha - \gamma}{1+i} = \frac{1}{2}\{(\beta - \gamma) + (\beta + \gamma - 2\alpha)i\}$$

(2) (1) の結果から

$$\begin{aligned} f(2) &= 4a + 2b + c \\ &= 2(\beta - \gamma) + 2(\beta + \gamma - 2\alpha)i + (\beta + \gamma - 2\alpha)(1-i) + \alpha \\ &= -\alpha + 3\beta - \gamma + (-2\alpha + \beta + \gamma)i \end{aligned}$$

$f(2) = x + yi$ とすると, $1 \leq \alpha, \beta, \gamma \leq 2$ に注意して

$$\begin{aligned} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} &= \begin{pmatrix} -\alpha + 3\beta - \gamma \\ -2\alpha + \beta + \gamma \end{pmatrix} = \alpha \begin{pmatrix} -1 \\ -2 \end{pmatrix} + \beta \begin{pmatrix} 3 \\ 1 \end{pmatrix} + \gamma \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix} + (\alpha - 1) \begin{pmatrix} -1 \\ -2 \end{pmatrix} + (\beta - 1) \begin{pmatrix} 3 \\ 1 \end{pmatrix} + (\gamma - 1) \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

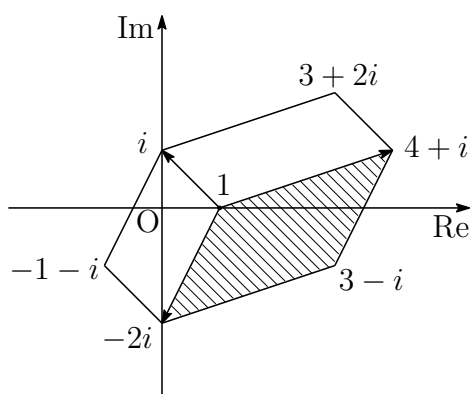
$\gamma = 1$ のとき, $f(2) = x + yi$ のとりうる範囲は, 左下の図のように点 1 を始点として, $-1 - 2i, 3 + i$ の張る平行四辺形の内部で境界線を含む.

よって, 求める領域は, この平行四辺形を $-1 + i$ だけ平行移動したときに描く軌跡の領域であるから, 右下の図のように複素数平面上の 6 点

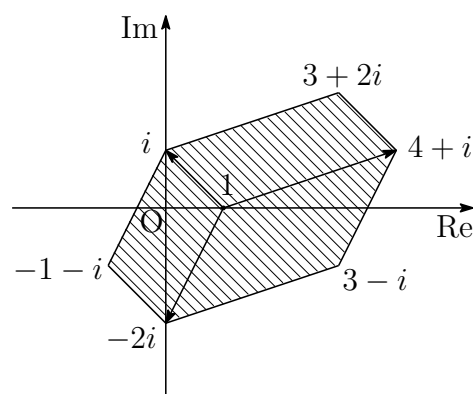
$$-2i, 3 - i, 4 + i, 3 + 2i, i, -1 - i$$

を頂点とする六角形の内部で境界線を含む.

$$1 \leq \alpha, \beta \leq 2, \gamma = 1$$



$$1 \leq \alpha, \beta, \gamma \leq 2$$



3 (1) $f(x) = \frac{x}{x^2 + 3}$ より $f'(x) = \frac{3 - x^2}{(x^2 + 3)^2}$ $f(1) = \frac{1}{4}$, $f'(1) = \frac{1}{8}$

ℓ は点 $\left(1, \frac{1}{4}\right)$ を通り, 傾き $\frac{1}{8}$ の直線であるから

$$y - \frac{1}{4} = \frac{1}{8}(x - 1) \quad \text{ゆえに} \quad \ell: y = \frac{1}{8}(x + 1)$$

$C: y = f(x)$ と $\ell: y = \frac{1}{8}(x + 1)$ の共有点の x 座標は

$$\frac{x}{x^2 + 3} = \frac{1}{8}(x + 1) \quad \text{整理すると} \quad x^3 + x^2 - 5x + 3 = 0$$

ゆえに $(x - 1)^2(x + 3) = 0$ これを解いて $x = -3$

(2) $f(x) = \frac{x}{x^2+3}$, $g(x) = \frac{1}{8}(x+1)$ であるから

$$\begin{aligned} \{f(x) - g(x)\}^2 &= \left\{ \frac{x}{x^2+3} - \frac{1}{8}(x+1) \right\}^2 \\ &= \left(\frac{x}{x^2+3} \right)^2 - \frac{x(x+1)}{4(x^2+3)} + \frac{1}{64}(x+1)^2 \\ &= \frac{(x^2+3) - 3}{(x^2+3)^2} - \frac{(x^2+3) + x - 3}{4(x^2+3)} + \frac{1}{64}(x+1)^2 \\ &= -\frac{3}{(x^2+3)^2} + \frac{7}{4(x^2+3)} - \frac{1}{4} - \frac{x}{4(x^2+3)} + \frac{1}{64}(x+1)^2 \end{aligned}$$

ここで、次の2つの定積分を

$$\begin{aligned} I &= \int_{-3}^1 \left\{ -\frac{3}{(x^2+3)^2} + \frac{7}{4(x^2+3)} \right\} dx, \\ J &= \int_{-3}^1 \left\{ -\frac{1}{4} - \frac{x}{4(x^2+3)} + \frac{1}{64}(x+1)^2 \right\} dx \end{aligned}$$

とおくと

$$\int_{-3}^1 \{f(x) - g(x)\}^2 dx = I + J$$

$$x = \sqrt{3} \tan \theta \text{ とおくと } \frac{dx}{d\theta} = \frac{\sqrt{3}}{\cos^2 \theta} \quad \begin{array}{|l|l|} \hline x & -3 \longrightarrow 1 \\ \hline \theta & -\frac{\pi}{3} \longrightarrow \frac{\pi}{6} \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{aligned} I &= \sqrt{3} \int_{-\frac{\pi}{3}}^{\frac{\pi}{6}} \left(-\frac{1}{3} \cos^2 \theta + \frac{7}{12} \right) d\theta \\ &= \sqrt{3} \int_{-\frac{\pi}{3}}^{\frac{\pi}{6}} \left(\frac{5}{12} - \frac{1}{6} \cos 2\theta \right) d\theta \\ &= \sqrt{3} \left[\frac{5}{12} \theta - \frac{1}{12} \sin 2\theta \right]_{-\frac{\pi}{3}}^{\frac{\pi}{6}} = \frac{5\pi}{24} \sqrt{3} - \frac{1}{4}, \\ J &= \left[-\frac{1}{4} x - \frac{1}{8} \log(x^2+3) + \frac{1}{192}(x+1)^3 \right]_{-3}^1 \\ &= -\frac{11}{12} + \frac{1}{8} \log 3 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{よって } \int_{-3}^1 \{f(x) - g(x)\}^2 dx &= \left(\frac{5\pi}{24} \sqrt{3} - \frac{1}{4} \right) + \left(-\frac{11}{12} + \frac{1}{8} \log 3 \right) \\ &= \frac{5\pi}{24} \sqrt{3} + \frac{1}{8} \log 3 - \frac{7}{6} \end{aligned}$$

4 (1) $KA = LB$ より

$$KA - KB = LB - KB \quad \text{ゆえに} \quad K(A - B) = (L - K)B$$

K, L をそれぞれ 4 で割った余りが等しいから $L - K \equiv 0 \pmod{4}$

$$K(A - B) \equiv 0 \pmod{4}$$

K は正の奇数であるから $A - B \equiv 0$ すなわち $A \equiv B \pmod{4}$

よって、 A を 4 で割った余りは、 B を 4 で割った余りと等しい。

$$(2) A = {}_{4a+1}C_{4b+1} = \prod_{j=0}^{4b} \frac{4a+1-j}{4b+1-j}, \quad B = {}_aC_b = \prod_{k=0}^{b-1} \frac{a-k}{b-k} \text{ より}$$

$$\begin{aligned} A &= \prod_{j=0}^{4b} \frac{4a+1-j}{4b+1-j} \\ &= \prod_{k=0}^b \frac{4a+1-4k}{4b+1-4k} \prod_{k=0}^{b-1} \frac{4a+1-(4k+1)}{4b+1-(4k+1)} \\ &\quad \times \prod_{k=0}^{b-1} \frac{4a+1-(4k+2)}{4b+1-(4k+2)} \prod_{k=0}^{b-1} \frac{4a+1-(4k+3)}{4b+1-(4k+3)} \\ &= (4a+1-4b) \prod_{k=0}^{b-1} \frac{4a+1-4k}{4b+1-4k} \prod_{k=0}^{b-1} \frac{a-k}{b-k} \\ &\quad \times \prod_{k=0}^{b-1} \frac{4a-1-4k}{4b-1-4k} \prod_{k=0}^{b-1} \frac{2a-1-2k}{2b-1-2k} \\ &= (4a+1-4b)B \prod_{k=0}^{b-1} \frac{(4a+1-4k)(4a-1-4k)(2a-1-2k)}{(4b+1-4k)(4b-1-4k)(2b-1-2k)} \end{aligned}$$

これから、正の奇数 K, L を

$$K = \prod_{k=0}^{b-1} (4b+1-4k)(4b-1-4k)(2b-1-2k)$$

$$L = (4a+1-4b) \prod_{k=0}^{b-1} (4a+1-4k)(4a-1-4k)(2a-1-2k)$$

とおくと、次式を満たす正の奇数 K, L が存在する。

$$A = \frac{LB}{K} \quad \text{すなわち} \quad KA = LB$$

(3) 2つの奇数 K, L の因数は, 法 4 について ($a - b$ は 2 で割り切れる)

$$4a + 1 - 4b \equiv 1 \pmod{4}$$

$$4b + 1 - 4k \equiv 4a + 1 - 4k \pmod{4}$$

$$4b - 1 - 4k \equiv 4a - 1 - 4k \pmod{4}$$

$$2b - 1 - 2k = 2a - 1 - 2k - 2(a - b) \equiv 2a - 1 - 2k \pmod{4}$$

したがって, 2つの奇数 K, L について $K \equiv L \pmod{4}$

これと $A = {}_{4a+1}C_{4b+1}$, $B = {}_aC_b$ を (1) の結論に適用すると

$$(*) \quad {}_{4a+1}C_{4b+1} \equiv {}_aC_b \pmod{4}$$

よって, ${}_{4a+1}C_{4b+1}$ を 4 で割った余りは, ${}_aC_b$ を 4 で割った余りと等しい.

(4) (*) の左辺は $a = 505$, $b = 9$ を代入したもので $a - b$ は 2 で割り切れるから

$${}_{2021}C_{37} \equiv {}_{505}C_9 \pmod{4}$$

さらに, 上式の右辺は, (*) の左辺に $a = 126$, $b = 2$ を代入したもので $a - b$ は 2 で割り切れるから

$${}_{505}C_9 \equiv {}_{126}C_2 \pmod{4}$$

$$\text{このとき } {}_{126}C_2 = \frac{126 \cdot 125}{2 \cdot 1} = 63 \cdot 125 \equiv 3 \cdot 1 \equiv 3 \pmod{4}$$

したがって ${}_{2021}C_{37} \equiv 3 \pmod{4}$ よって 求める余りは **3**

5 (1) $A(-\alpha, -3)$, $P(\theta + \sin \theta, \cos \theta)$, $f(\theta) = AP^2$ より

$$f(\theta) = (\theta + \sin \theta + \alpha)^2 + (\cos \theta + 3)^2$$

これを順次微分し, 第3次導関数まで求めると

$$f'(\theta) = 2(\theta + \sin \theta + \alpha)(1 + \cos \theta) + 2(\cos \theta + 3) \cdot (-\sin \theta)$$

$$= 2(\theta - 2\sin \theta + \alpha + \theta \cos \theta + \alpha \cos \theta),$$

$$f''(\theta) = 2(1 - \cos \theta - \theta \sin \theta - \alpha \sin \theta),$$

$$f'''(\theta) = -2(\theta + \alpha) \cos \theta$$

$\alpha > 0$ であるから, $f'''(\theta)$ の増減表は次のようになる.

θ	0	...	$\frac{\pi}{2}$...	π
$f'''(\theta)$		-	0	+	
$f''(\theta)$	0	\searrow	極小	\nearrow	4

上の増減表から, 次を満たす φ が唯一存在する

$$f''(\varphi) = 0, \quad 0 < \varphi < \pi$$

これから, $f'(\varphi)$ の増減表は次のようになる.

θ	0	...	φ	...	π
$f''(\theta)$		-	0	+	
$f'(\theta)$	4α	\searrow	極小	\nearrow	0

$f'(0) = 4\alpha > 0$ であるから, 上の増減表より

$$f'(\psi) = 0, \quad 0 < \psi < \pi$$

を満たす ψ がただ一つ存在し, 題意は証明された.

(2) (1) の結果から, $f(\theta)$ の増減表は

θ	0	...	ψ	...	π
$f'(\theta)$		+	0	-	
$f(\theta)$		\nearrow	極大	\searrow	

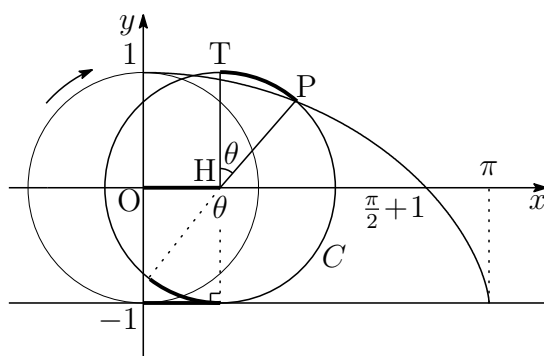
$\theta = \psi$ で最大であるから $(0 < \psi < \frac{\pi}{2})$

$$f' \left(\frac{\pi}{2} \right) < 0 \quad \text{すなわち} \quad 2 \left(\frac{\pi}{2} - 2 + \alpha \right) > 0$$

$\alpha > 0$ に注意して, これを解くと $0 < \alpha < 2 - \frac{\pi}{2}$

補足 Pの描く図形はサイクロイドである．半径1の円Cが下の図のように直線 $y = -1$ 上を滑ることなく転がるとき，C上の定点Pが描く軌跡である． $\theta = 0$ のとき，Cの中心Hは原点O，Pは(0, 1)にあるから，HPの偏角は $\frac{\pi}{2} - \theta$ である．点Tを $(\theta, 1)$ とすると， $\widehat{TP} = OH$ であるから

$$\vec{OP} = \vec{OH} + \vec{HP} = \begin{pmatrix} \theta \\ 0 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} \cos\left(\frac{\pi}{2} - \theta\right) \\ \sin\left(\frac{\pi}{2} - \theta\right) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \theta + \sin\theta \\ \cos\theta \end{pmatrix}$$



$x(\theta) = \theta + \sin\theta$, $y(\theta) = \cos\theta$, $\vec{v} = (x'(\theta), y'(\theta))$ とおくと

$$f(\theta) = |\vec{AP}|^2 = (x(\theta) + \alpha)^2 + (y(\theta) + 3)^2$$

これを θ について微分すると

$$\begin{aligned} f'(\theta) &= 2(x(\theta) + \alpha)x'(\theta) + 2(y(\theta) + 3)y'(\theta) \\ &= 2\vec{AP} \cdot \vec{v} \end{aligned}$$

$f'(\theta) = 0$ のとき $\vec{AP} \cdot \vec{v} = 0$ すなわち $\vec{AP} \perp \vec{v}$

このとき，点Pにおける接ベクトル \vec{v} と \vec{AP} は垂直である．

$$\boxed{6} \quad (1) \quad (*) \quad x^4 + bx + c = (x^2 + px + q)(x^2 - px + r)$$

(*) の右辺を展開すると

$$x^4 + bx + c = x^4 + (-p^2 + q + r)x^2 - p(q - r)x + qr$$

(*) は x に関する恒等式であるから、同じ次数の項の係数を比較して

$$\begin{cases} -p^2 + q + r = 0 & \cdots \textcircled{1} \\ -p(q - r) = b & \cdots \textcircled{2} \\ qr = c & \cdots \textcircled{3} \end{cases}$$

$p \neq 0$ のとき、 $\textcircled{1}$ 、 $\textcircled{2}$ より

$$q + r = p^2, \quad q - r = -\frac{b}{p}$$

上の2式から $q = \frac{1}{2} \left(p^2 - \frac{b}{p} \right), \quad r = \frac{1}{2} \left(p^2 + \frac{b}{p} \right)$

(2) (1) の結果を $\textcircled{3}$ に代入すると

$$c = \frac{1}{4} \left(p^4 - \frac{b^2}{p^2} \right) \quad \text{ゆえに} \quad p^6 - 4cp^2 - b^2 = 0$$

上の第2式に $b = (a^2 + 1)(a + 2)$, $c = - \left(a + \frac{3}{4} \right) (a^2 + 1)$ を代入すると

$$\begin{aligned} p^6 + (4a + 3)(a^2 + 1)p^2 - (a^2 + 1)^2(a + 2)^2 &= 0 \\ p^6 + \{(a + 2)^2 - (a^2 + 1)\}(a^2 + 1)p^2 - (a^2 + 1)^2(a + 2)^2 &= 0 \\ p^6 - (a^2 + 1)^2p^2 + (a^2 + 1)(a + 2)^2\{p^2 - (a^2 + 1)\} &= 0 \\ p^2\{p^2 + (a^2 + 1)\}\{p^2 - (a^2 + 1)\} & \\ + (a^2 + 1)(a + 2)^2\{p^2 - (a^2 + 1)\} &= 0 \\ \{p^2 - (a^2 + 1)\}\{p^4 + (a^2 + 1)p^2 + (a^2 + 1)(a + 2)^2\} &= 0 \end{aligned}$$

よって $f(t) = t^2 + 1, \quad g(t) = (t^2 + 1)(t + 2)^2$

別解 (A) $p^6 + (4a + 3)(a^2 + 1)p^2 - (a^2 + 1)^2(a + 2)^2$ が

$$(B) \{p^2 - (a^2 + 1)\}\{p^4 + f(a)p^2 + g(a)\}$$

であるから, p に関する定数項と 2 次の項の係数を比較して

$$\begin{cases} -(a^2 + 1)g(a) = -(a^2 + 1)^2(a + 2)^2 \\ g(a) - (a^2 + 1)f(a) = (4a + 3)(a^2 + 1) \end{cases}$$

第 1 式から $g(a) = (a^2 + 1)(a + 2)^2$

これを第 2 式に代入すると

$$\begin{aligned} (a^2 + 1)(a + 2)^2 - (a^2 + 1)f(a) &= (4a + 3)(a^2 + 1) \\ (a + 2)^2 - f(a) &= 4a + 3 \\ f(a) &= a^2 + 1 \end{aligned}$$

逆に, $f(a) = a^2 + 1$, $g(a) = (a^2 + 1)(a + 2)^2$ を (B) に代入して展開すると, (A) を得る. よって, $f(t) = t^2 + 1$, $g(t) = (t^2 + 1)(t + 2)^2$

$$(3) \quad b = (a^2 + 1)(a + 2), \quad c = -\left(a + \frac{3}{4}\right)(a^2 + 1)$$

(i) $p = 0$ のとき, ①~③ により

$$q + r = 0, \quad (a^2 + 1)(a + 2) = 0, \quad qr = -\left(a + \frac{3}{4}\right)(a^2 + 1)$$

上の第2式から $a = -2$ これを第3式に代入して $qr = \frac{25}{4}$
 q, r は2次方程式 $x^2 + \frac{25}{4} = 0$ の解で, 実数解を持たず, 不適.

(ii) $p \neq 0$ のとき, (2) の結果から

$$(**) \quad \{p^2 - (a^2 + 1)\}\{p^4 + (a^2 + 1)p^2 + (a^2 + 1)(a + 2)^2\} = 0$$

を満たす p である. (**) において

$$p^4 + (a^2 + 1)p^2 + (a^2 + 1)(a + 2)^2 > 0$$

であるから, $p^2 - (a^2 + 1) = 0$ ゆえに $p^2 = a^2 + 1$

(*) より, p は有理数で, $p = \frac{k}{l}$ とすると (k, l は互いに素)

$$\frac{k^2}{l^2} = a^2 + 1$$

右辺は整数であるから, $l = 1$ となり, p は整数.

$$p^2 - a^2 = 1 \quad (p + a)(p - a) = 1$$

$$\text{したがって} \quad \begin{cases} p + a = 1 \\ p - a = 1 \end{cases} \quad \text{または} \quad \begin{cases} p + a = -1 \\ p - a = -1 \end{cases}$$

これを解いて $(p, a) = (1, 0), (-1, 0)$

よって, 求める a の値は $\mathbf{a = 0}$